

北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名(第13回)

当社は、7月12日に白老町にオープンしたアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)」の「官民応援ネットワーク」に参画しています。

先住民が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。

第13回目は、尻別川水系の蘭越発電所です。

蘭越(ランコシ)

尻別川は、千歳市と伊達市の境界のフレ岳に源を発し、羊蹄山の北側を回りこむように流れ、蘭越町で日本海に注ぐ一級河川です。羊蹄山からの湧水などが集まるため水質が極めて良好で、国土交通省の「日本の河川水質調査ランキング」では、2009年から2018年まで”最も水質が良いとされる川”のひとつに選ばれています。



蘭越発電所

その清流に生息するニジマス、ヤマメ釣りや、ダイナミックな川下りを体験できるラフティングが人気を集めています。

この尻別川には、当社の水力発電所が4つあります。上流から、京極町にある寒別(かんべつ)発電所(1,900kW)、ニセコ町にある比羅夫(ひらふ)発電所(12,000kW)、蘭越町の昆布発電所(9,000kW)と蘭越発電所(5,700kW)です。これらの発電所は、倶知安町にある当社水力センターですべての保守・管理を行っています。

これらの発電所の中で、尻別川の最下流に位置する蘭越発電所は、1951(昭和26)年の運転開始で当社創立後、最初の発電所として作られましたが、約70年経った今も現役で活躍中です。

さて、「蘭越」はランコ・ウシ・イ(ranko-usi-i 桂・群生する・処)から来た名前とされています。千歳市内の、市街地から支笏湖へ向かう途中にも同名の地名があります。

また尻別川の「尻別」については、古い文献をたどってもあまりはっきりした記録は残っていないようですが、シリ・ペツ(sir-pet 山の・川)に由来するもので、長く山の中を流れてきたので、こう呼ばれたとする説があります。

(出典:山田秀三「北海道の地名」)